

第4回 人口減少対策検討懇談会の結果について

1 開催日時

平成27年10月1日（木） 午後1時30分～午後3時00分

2 議事

- ・ 「宇都宮市人口ビジョン」（素案）及び「宇都宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（素案）について

3 主な意見

- ・ 社会資本の負担比率、みんなが築いてきた有形資産に対する公債負担がどれだけあるか、そうした指標の方が、前向きに取り組んでいることを反映できる。
- ・ K P Iについては、全体として総合的に判断することが大切。健康寿命を掲げているのに、K P Iでは平均寿命を挙げているなど、K P Iは限界性があるという含みを持って進めてほしい。
- ・ 今までの事業を実施してきた結果、人口が減少してきているのだから、全体を引っ張っていく重点事業、リーディング事業がないと、大きな変化は起きないのではないか。
- ・ こども医療費助成制度の拡充は、高度成長の時にはできない事業で、子どもが少ない今だからこそできる事業と思う。そうした考えで、雇用に結びつけるような施策、空き家対策など、今の時代だからできる施策を入れた方が良い。
- ・ 人口について分析はあるが、どう現出するか、具体的な道筋、シナリオを描く必要がある。そのシナリオに基づいて個々の施策がある。人口ビジョンと戦略があるが、いきなり個々の施策になっていて、実現のためのシナリオが見えてこない。
- ・ 市の立場として、各部局が事業を出してきた事業を人口減少対策の戦略としてまとめているということに意味がある。事業をまとめ、進行管理しながら、人口戦略として見ていける。総合計画では子育てをトップに掲げて、N C Cに入っている事業などもあり、そうした計画から外れることはできないが、人口戦略としてひとつにまとめている。ただし、基本的な方向性の部分を、羅列するのではなく、もう少し重点を置き、基本的な方向を書き加えるとわかりやすくなるのではないかと。
- ・ 若い人の正社員の問題や労働条件の改善などが書き込まれているのは良い。
- ・ 人口については、今、住んでいる人が一番大切で、そうした住民が引き続き宇都宮に魅力を感じ、主体として魅力をつくっていけるようにする。今、いる人をないがしろにせず、着実に進めていく。
- ・ 今後5年間に推進していくことが本番となる。K P Iを検証し、効果を見ながら、場合によっては変更する勇気も必要。出来上がったものについては推進し、先を見据え、検証にも力を入れながら進めることが大事。
- ・ まちづくりでは、今後、高齢者が住みやすいまちが重要。歩いていける範囲に施

設が集中しており、5分10分歩けば商店街、図書館などがあれば住みやすい。超高齢社会を迎えるに当たり、高齢者にとって安全な居場所を確保することが必要。

- ・ 子育てへの参画は、女性だけでなく男性にも大切なこと。女性だけでなく男性の働き方も変えるような施策があれば良い。
- ・ 人口ビジョンと総合戦略ができたが、これを実行するためにどうするということを盛り込まないと市民には伝わらない。プロジェクトチームを組む、定期的に会議をやるなど、市として具体的にこうやるということ盛り込む必要がある。
- ・ 以前に会議で、全市町村で策定する計画なので、その中で目立つものにする必要があると意見を出したが、もう少し具体性の部分や、宇都宮の本気度を示す必要がある。
- ・ 今回の策定における収穫としては、「まち・ひと・しごと創生」というテーマに対し、市民などがそれぞれの立場から行政に提言することができた。素案ができて目標をひとつクリアしたが、第2フェーズとして、素案に対してより具体的な施策・事業を誰が提案していくかが重要。
- ・ 宇都宮の魅力を発信するための戦略、特にITなどを活用した情報戦略を検討してほしい。
- ・ 宇都宮市としては従来から「住めば愉快だ」など先進的に取組んでおり、今後とも既成の事業として継続し、キャッチフレーズを含めてPRできれば良い。宇都宮市は強みの部分が多いので、宇都宮のPRは県全体の牽引役にもなる。
- ・ こういう事業をやればビジョンが実現するという中で、この事業だけは一般財源を使ってでも実施するというものを1つでも2つでも出した方が伝わるのではないか。
- ・ 事業を100%実施することは難しいので、市民の意識が高いもの、希望が高いものから取り組む。
- ・ 今後の進め方として、2050年に50万人を維持するというのはかなり厳しい数字だが、一丸となって進めれば不可能ではないと思う。
- ・ 5年間の計画で、その先、国としてどうなるかはわからないが、計画の趣旨は市の総合計画に継続していかないと達成は難しくなる。
- ・ 県の150万人のうち宇都宮市が50万人と、3分の1を宇都宮市が占める。県庁所在地として、市だけでなく県全体を見据えて、県や周辺とのバランスを考えながら、達成を目指してほしい。